

酒井邦嘉 さかい・くによし

東京大学大学院総合文化研究科

大学1年生に薦めたい3冊

『朝永振一郎著作集8 量子力学的世界像』 朝永振一郎 みすず書房

『特殊および一般相対性理論について』

アルバート・アインシュタイン 白揚社

『生成文法の企て』 ノーム・チョムスキー 岩波書店

『朝永振一郎著作集』はぜひ全巻を読んでほしいが、なかでも朝永先生らしい一冊といえば、第8巻の『量子力学的世界像』であろうか。最初に読んだのは高校3年生の時だった。当時、朝永夫人（朝永領子氏）が高校や大学の図書館に朝永先生の本を寄贈する活動をされていて、出版されたばかりの著作集が次々と届くのを待ちわびるようにして読んだことを覚えている。素粒子という物理学の究極の理論の世界を、一流の人が語ってくれていることに強いインパクトを感じた。単にわかりやすいというのとは違って、味わい深く、オチのある軽妙洒脱な筆致に引き込まれた。カバーの挿絵も量子力学を朝永先生らしく表現した絵で、これもまた洒落ている。

特に第8巻に収載されている『光子の裁判』や『量子力学的世界像』は傑作であり、朝永先生の脂ののっていた時期に余興で書かれたようなものだが、戦後わずか2～4年というたいへんな時期にこれらの文章を書かれたというところに、朝永先生の凄さを感じる。私自身、将来は物理をやりたいと思っ

朝永振一郎著作集

量子力学的世界像

第8巻



みすず書房

『朝永振一郎著作集8 量子力学的世界像』

〔新装版〕

朝永振一郎 著

みすず書房 3150円

ていた時期で、自分でもこういう研究の面白さを味わえるかもしれない、と夢をいただいた。

私の研究室では、自分の居室はもちろん、大学院生のいる部屋にも全巻を置き、いつでも手に取れるようにしている。本は、読みたいと思ったときにすぐに手にすると、なぜかちょうど自分の求めていることが書いてあったりする。「読んだらいいよ」と言わなくても、そこにあるということが大事なのである。

『特殊および一般相対性理論について』はアインシュタインが一般向けに相対性理論をわかりやすく書いた本。数式は最低限で、哲学的なものも含めれば非常に内容が深い。本物に触れるという意味では、1905年の論文を読むのがよいが、次に価値が高いのは、本人が書いた、本人の仕事に関する本だ。通俗本を何冊読んでも解消できなかった疑問が解消できる。オリジナルの強さというべきだろう。

3冊目は、私の仕事にかかわるものでもあるので、チョムスキーの『生成文法の企て』を挙げておこう。20世紀において、コペルニクス的転回といえるものがいくつあったか？と考えたときに、確実にその1つに挙げられるのがチョムスキーのアイデアと仕事だと思う。

学生時代に読んだ記憶に残る本

手垢でよごれるほど何度も読み返した『アインシュタイン選集』（共立出版）。何よりもまず、100年前の論文が日本語で読めるということがすばらしい。出てくる数式は難しいが、理系の学生であれば大学1年生で読めるし、何らかの手応えが得られるかたちで書かれている。あとはじっくりと時間を

かけて、めげずに一步一步進むことだ。「解説」の部分には簡にして要を得た説明があり、なぜこの論文が大事なのか、その背景が理解できるように書かれている。大学1年生のときにこの本を読んで、サイエンスをやる、学問をやるというのはどういうことなのか、イメージがはっきりと湧いた。自分にとって一番大事なところをガツンと教えてもらった本だ。

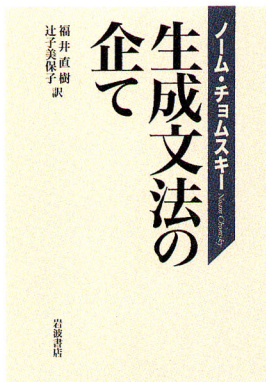
大学1年生へのメッセージ

『アインシュタイン選集 2』の「監修者のことば」で、湯川秀樹先生は、本書で紹介した論文の内容は多くの教科書にも載っている、と前置きしたうえで次のように述べている。「しかし教科書では、すでにできあがっているものを、読者になるべく理解しやすいように説明することに重点がおかれている。したがって同じ結論が述べられていても、発見者がそれに、どのようにしてたどりついたかを如実に示している原著のおもしろみや価値に比べれば、ハイウェイをドライブする楽しさと、前人未踏の地を探検するスリル満点の愉快さほどの違いがある。

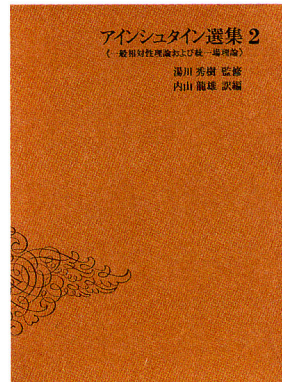
今の時代は、目的地に効率良く着くことが大事だと思っている人が多いかもしれない。しかし、学問を作った人は無駄を無駄と思わずにやってきた人で、スリルを味わいながら、道がないところに道を作っていた。オリジナルは直接的であるがゆえに力を持っている。その力は初学者でもわかるものだ。理屈抜きにこれは本物だというものを楽しんでほしい。そのためには、無駄だとか、無理だ、難しすぎるなどと臆することなく、自分でもわかるかもしれない、読めるかもしれない、と思うことが一番大事なのだ。



『特殊および一般相対性理論について』
[新装版]
アルバート・アインシュタイン 著 金子務 訳
白揚社 2520円



『生成文法の企て』
ノーム・チョムスキー 著
福井直樹/辻子美保子 訳
岩波書店 3780円



『アインシュタイン選集 1-3』
アインシュタイン 著 湯川秀樹 監修
共立出版
7245円 (1, 2巻) 9450円 (3巻)